

立科町図書室の 生みの親であり、 支えるひとでもある 横谷さんに インタビュー!

当公民館図書室は、昭和61年に、町民有志の呼び掛けにより一人1冊を持ち寄って創られた手づくり図書館であるということを、皆さんご存知でしたか？

横谷忠彦さん(上房)は、図書室設立当時「立科町図書館設立推進町民の会」の中心となり活躍された方です。以来、毎年、「図書購入に役立てほしい」とご寄付を続けてくださっています。

今回は、そんな横谷さんに、お話を聞きしました。

Q1 立科町に図書館を創ろうと思うたきっかけを教えてください。

横谷さん PTAによる資源回収に参加した時に、全集や百科事典など多くの本が出されているのを見て、もったいないと思ったのがきっかけです。私たちの子どもたちは、本など簡単に買ってもらえない時代でしたから。そこにいた人たちと、「1冊という本を集めて、町に図書館を創れんもんかねえ」と言ったところ、たくさんの人が賛成してくれました。よい仲間恵

まれたのも、大きなきっかけだったと思います。

また、県立図書館の前身である信濃図書館をつくったという地元の偉人、保科五無斎さんの影響もあったかもしれません。

Q2 当時のエピソード(思い出)は、何かありますか？

横谷さん 「夢の図書館」設立には、とにかく時間がかかりました。設立したいという夢に対して、当時120名もの人が集まってくれました。しかし、願いはあるものの、そのための手順、方法など全てが手探りでしたから、構想1年、準備活動に2年という長い年月を費やしました。先の見えない活動に、夢半ばにしてあきらめざるをえなかった仲間もいます。私自身も何度もくじけそうになりましたが、ここでやめたら後悔すると思いましたが、仲間がいたのでやりとげられたのだと思います。

Q3 寄付をするようになったきっかけと、長年続けている理由を教えてください。

横谷さん 設立に向けて、町民1人1冊と考え、1万冊を目標にしました。そのために、1人1冊の本の寄贈か、現金による寄付を呼び掛けました。私が寄付を続けているのは、仲間と一緒に苦勞して創り上げた「手作り図書館」を残したいと思うからですかねえ。

正直なところ、「このお金でもっとお酒が飲めるのに…」と思うこともありますが、思い出の方が勝るんですよ(笑)

Q4 今回の寄付金で、絵本を8冊購入させていただきましたが、子どもたちに、メッセージをお願いします。

横谷さん 寄付を有効に活用していただきうれしく思います。よい本が入り図書室がさらに充実し、人が集まれる場、必要な情報が得られる場になるとを望んでいます。ここで過ごした子供たちが、大きくなったときに、手作り図書館の精神が引き継がれていくことを望みます。家の孫も利用させていただいているらしく、時を超えたつながりを実感できてうれしいです。また、夢は持ち続けること、一人では難しくとも、協力し合えば実現できるということも伝えられたらうれしいです。



今回購入させていただいた新刊絵本

お知らせ

「ちゅうりっぷの会」による

乳幼児のための おはなし会



日時 4月24日(水) 午前10時30分～
場所 中央公民館 視聴覚室
対象 0歳児～
**大型絵本・パネルシアターなど
親子でお楽しみください**

寄贈者

(順不同・敬称略)

たくさん本を寄贈していただき、ありがとうございます。紙面にてお礼にかえさせていただきます。

- | | |
|------------|-------------|
| 矢田精一 [大城] | 佐々木治夫 [小諸市] |
| 田中浩江 [大城] | 他 匿名 |
| 山田 繁 [蓼科] | [現金] |
| 大橋 勝 [蓼科] | 横谷 忠彦 [上房] |
| 今井 清 [西塩沢] | |
| 橋詰俊道 [茂田井] | |
| 田口茂夫 [大深山] | |
| 横谷忠彦 [上房] | |
| 田口美鈴 [長和町] | |

お話を聞きして
横谷さんのお話から、当時の様子やご苦勞がよくわかりました。現在の図書室は、町の予算で新刊を入れることができ、所蔵数2万冊とずいぶん充実しました。しかし、この図書室が、たくさんの人の苦勞や想いの詰まった「夢の図書室」であることを忘れずに、大切に未来までつないでいきたいと感じました。